



# 未来に つなぐ 工芸品

おり もの せん しょく ひん

## 織物・染色品・ 和紙・文具



監修 大牧圭吾



# この本の使い方 - 伝統的工芸品について -

この本では、日本の伝統的な技法でつくられた織物や染色品、和紙、くみひもなどの繊維製品、文具について紹介し、解説していきます。

工芸品とは、日常生活の中で使う道具のうち、使いやすさと美しさの両方を持つものです。そして、伝統的な技法で工芸品をつくることを「伝統工芸」といいます。たとえば、この本の20、21ページの加賀友禅、京友禅の「手描き友禅」などの技法が伝統工芸です。

伝統工芸の中には、国に指定されている「伝統的工芸品」があります。指定されるには、5つの条件を満たしている必要があります。

## ●国が指定する伝統工芸品

- 1) 日常生活で使われるもの
- 2) 製造工程の主な部分が手づくり
- 3) 100年以上の歴史を持つ伝統的な技術や技法

それぞれの伝統的工芸品のページを読む前に、知っておきたい基本情報のページ。

各ページで、工芸品の歴史、特長、使用材料、つくり方などを解説。

伝統的工芸品名と生産地



工芸品基本情報

によって製造されるもの  
4) 伝統的に100年以上使われてきた材料を使ってつくられたもの

5) 一定の地域において、ある程度の規模（職人30人以上または10企業以上）でつくられ地域産業として成り立っているもの

なお、同じ条件で「〇〇県伝統的工芸品」など、伝統的工芸品の指定制度を取り入れている自治体もあります。この本では、秋田県の「秋田八丈」（→15ページ）、京都府の「ガラスペン」（→41ページ）などです。

それぞれの工芸品が、世代をこえてどのように伝わり、今にいたるのか調べてみましょう。職人さんが使っている、伝統的な専用の道具についても紹介します！



この伝統マークは、経済産業大臣指定伝統的工芸品のシンボルマークです。産地組合などが実施する検査に合格した製品にはこの伝統マークを使った伝統証紙がはられています。

伝統的工芸品について

くわしくは「伝統工芸 青山スクエア」を調べてみよう。



## 地図で見る/

# 伝統的工芸品 織物・染色品・和紙・文具

## 織物

- 1 二風谷アットウシ（北海道）
- 2 置賜織（山形県）
- 3 羽越しな布（山形県・新潟県）
- 4 奥会津昭和からむし織（福島県）
- 5 結城織（茨城県・栃木県）
- 6 伊勢織（群馬県）
- 7 桐生織（群馬県）
- 8 秋田銘仙（秋田県）
- 9 村山大島織（東京都）
- 10 本場大島織（東京都）
- 11 多摩織（東京都）
- 12 塩沢織（新潟県）
- 13 小千谷織（新潟県）
- 14 小千谷織（新潟県）
- 15 本塩沢（新潟県）
- 16 十日町織（新潟県）
- 17 十日町明石ちぢみ（新潟県）
- 18 牛首織（石川県）
- 19 信州織（長野県）
- 20 近江上布（滋賀県）
- 21 西陣織（京都府）
- 22 弓浜織（鳥取県）
- 23 阿波正藍しじら織（徳島県）
- 24 博多織（福岡県）
- 25 久留米織（福岡県）
- 26 本場大島織（鹿児島県）
- 27 久米島織（沖縄県）
- 28 宮古上布（沖縄県）
- 29 読谷山花織（沖縄県）
- 30 読谷山ミンサー（沖縄県）
- 31 琉球織（沖縄県）
- 32 百里織（沖縄県）
- 33 与那国織（沖縄県）
- 34 喜如嘉の芭蕉布（沖縄県）
- 35 八重山ミンサー（沖縄県）
- 36 八重山上布（沖縄県）
- 37 知花織（沖縄県）
- 38 南風原花織（沖縄県）

## 染色品

- 1 東京染小紋（東京都）
- 2 東京手描友禅（東京都）
- 3 東京無地染（東京都）
- 4 加賀友禅（石川県）
- 5 有松・鳴海絞（愛知県）
- 6 名古屋友禅（愛知県）
- 7 名古屋黒絞付染（愛知県）
- 8 京鹿の子絞（京都府）
- 9 京友禅（京都府）
- 10 京小紋（京都府）
- 11 京黒絞付染（京都府）
- 12 浪華本染め（大阪府）
- 13 琉球びんがた（沖縄県）
- 14 東京本染注染（東京都）

## その他の繊維製品

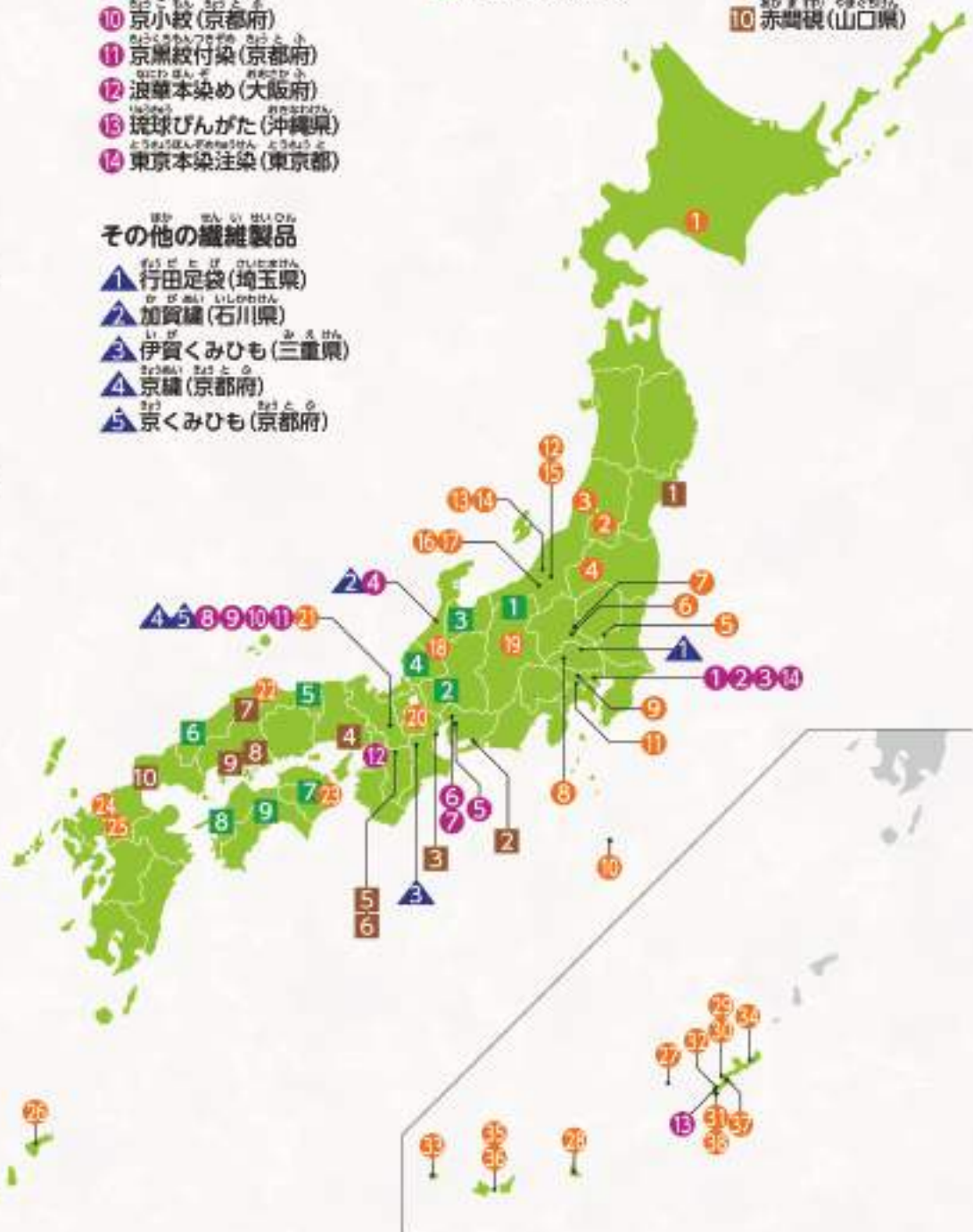
- 1 行田足袋（埼玉県）
- 2 加賀織（石川県）
- 3 伊賀くみひも（三重県）
- 4 京織（京都府）
- 5 京くみひも（京都府）

## 和紙

- 1 内山紙（長野県）
- 2 美濃和紙（岐阜県）
- 3 越中和紙（富山県）
- 4 越前和紙（福井県）
- 5 因州和紙（鳥取県）
- 6 石州和紙（島根県）
- 7 阿波和紙（徳島県）
- 8 大洲和紙（愛媛県）
- 9 土佐和紙（高知県）

## 文具

- 1 雄勝硯（宮城県）
- 2 豊橋筆（愛知県）
- 3 鈴鹿墨（三重県）
- 4 播州そろばん（兵庫県）
- 5 奈良筆（奈良県）
- 6 奈良墨（奈良県）
- 7 雲州そろばん（鳥取県）
- 8 熊野筆（広島県）
- 9 川尻筆（広島県）
- 10 赤崎硯（山口県）



# 工芸品クイズに ちょうせん!

この本で紹介している織物や染色品、和紙、文具などの工芸品に関するクイズです。正解がわかったら、答えについて書かれているページを見て、それぞれの工芸品の特徴や特色についてくわしく調べてみましょう。

「Q1 織物の「紬」「絣」「縮」  
のちがいは何?  
⇒答えは9、11～13ページ」



写真提供/小千谷織物製造組合

「Q2 「絹」「麻」「綿」のうち、  
カイコのまゆから  
つくられた糸はどれ?  
⇒答えは8ページ」



「Q3 白い生地をきれいに  
染め上げるには、どうする?  
⇒答えは21ページ」



写真提供/京友禅部町染色協会



写真提供/京くみひも工業協同組合

「Q4 「くみひも」は、  
何に使われる?

⇒答えは27～28ページ」

「Q5 日本各地に伝わる和紙、美濃和紙、  
越前和紙、土佐和紙などには、  
どんなちがいがあある?

⇒答えは34～36ページ」



「Q6 和紙の材料には、  
何が使われている?

⇒答えは32ページ」

「Q7 工芸品の筆の毛は、  
何の毛?

⇒答えは32、38ページ」



# 織物

織物とは、平行にならべた経糸に対して、緯糸を直角に組んでつくられる布のことです。織物はかなり古くからあり、日本では縄文時代末期の遺跡から発見されています。私たちが着ている布製品のほとんどが織物ですが、多くは織り機により機械的な作業で生まれたものです。一方、昔ながらの手織りでつくられる工芸品もあります。2023 年現在、国の伝統的工芸品に指定されている織物は 38 品目。まずは織り糸、織物の種類、織り方、染色法を知って、第 1 章から代表的な織物を見ていきましょう。

key word

1

## 織物に使う糸 絹・麻・綿

織物に使われる糸は、大きく分けて自然素材のものと、ポリエステル、ナイロン、アクリルなど、石油などから人工的につくられた化学繊維があります。伝統的な織物は、昔から自然の中にあるものでつくられてきました。

代表的な織物糸は、カイコというこん虫のまゆからつくられる絹糸、苧麻（別名カラムシ）などからできる麻糸、ワタをつむいでつくる綿糸があります。また、シナノキなどの木の皮からつくられる糸も伝統的工芸品に使用されています。

自然素材でつくられた織物は、手ざわりがよく、空気をふくんで保温性が高いといった特性を持っていることが特徴です。

麻

### 苧麻の生糸

茎や幹をさいて繊維を取り出し、しごくなどして、やわらかくして麻糸をつくっていく。

### 苧麻の畑

苧麻を刈り取るようす。写真提供／江戸時代から栽培技術を伝承してきた、昭和村からむし生産技術保存協会。

### カイコとクワ

カイコは、クワの葉を食べるカイコガの幼虫。古くから人に飼育され、カイコのエサになるクワも栽培されてきた。

絹



### まゆ玉

カイコがさなぎになるとき、口から糸をはいてまゆ玉をつくる。まゆを煮てはぐしたものを真綿、つむいで糸にしたものが生糸とよばれる。



綿

### 綿花

ワタの実がはじけ、白い綿花が現れた状態。これをつむいで糸をつくる。



### ワタの実

ワタの実と、ワタの実から取られた種子。



種子

key word

2

## 織物の種類 紬・絁・縮

織物の生地には、「紬」「絁」「縮」などの種類があり、それぞれつくり方に特徴があります。

紬は、生糸にならないまゆを煮てやわらかくして広げ、かさねた真綿から糸をつむいで織る高級絹織物です。絁は、かすれたような「絁もよう」が入った織物で、

出したい色に染め分けた糸でもようが現れるように織ります。材料は絹糸、綿糸、麻糸などを使います。縮は、よりを強くかけた緯糸を使い、織り上げたあと、「しぼ」という細かいしわを入れる織物です。材料は、産地によってさまざまな糸が使われます。

紬



絹織物の一つ。手でつむぐので糸の太さは一定ではないが、軽くてじょうぶ。

絁



久留米、伊予、琉球などが産地。かすれたようなもようが特徴。

縮



「しぼ」によって肌にまとわりつかないので、さらりとした着心地になる。

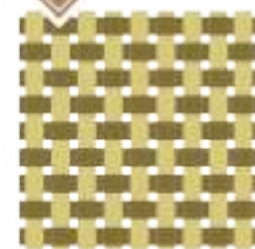
key word

3

## 織り方 平織・綾織・朱子織

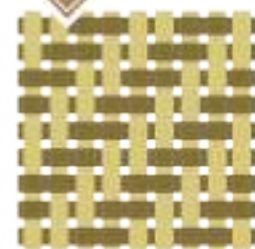
織物の生地の織り方は、大きく分けて「平織」「綾織」「朱子織」の3つがあります。平織は、経糸と緯糸が1本ずつかわるがわるに交差する、もっともふつうの織り方です。平織の上等な麻織物のことを上布といいます（→15 ページ）。綾織は、経糸と緯糸を2本ずつとばすなどして交差させていく織り方、朱子織は、経糸と緯糸を4本ずつとばすなど、糸が交差する点を少なくした織り方です。

平織



まさつに強くじょうぶな織物になる。

綾織



しわになりにくい、伸縮性のある織物になる。ななめに現れた模様を「綾目」という。

朱子織



光沢があって、なめらかな織物になる。サテンともよばれる。

key word

4

## 染め方 先染め・後染め

伝統工芸品に指定されている織物の多くは、織物になる前の糸の段階で染める「先染め」という染色法でつくりまわす。色のちがう糸を組み合わせて、織物に仕上げていきます。

一方、「後染め」は、織り上がった生地に染色する方法や、白い生地にえがいた下絵の上に糊をのせ、筆で色をぬる方法、和紙に下絵をはり、彫刻刀でほって型紙をつくり、その模様を染める方法などがあります。

先染め



### 西陣織

先に糸染めして多くの色糸を組み合わせて生地にしあげていく（→10 ページ）。

写真提供／西陣織工業組合

後染め



### 加賀友禅

色彩豊かな美しいもようをえがけるのが特長（→20 ページ）。

写真提供／加賀友禅保存協会

## 熊野筆と町民の出会い

広島県熊野町で生産されている筆で、書筆や絵筆、化粧筆、刷毛などの種類があります。江戸時代、熊野町の人々は、農作業が休みの時期に、近畿地方に出かぜぎに行き、帰りに、奈良県や兵庫県などで仕入れた筆や墨を売り始めました。そして江戸時代の末に、有馬（兵庫県）や奈良の職人たちから筆づくりを教わった人や、広島藩主の御用筆司から技術を学んだ人が村にもどり、技法を伝えたといわれています。

**熊野筆の特長** 筆は、先端部分の「穂首」と持ち手部分の「じく」に分かれています。穂首はウマ、シカ、イタチ、タヌキ、ヤギ、ネコなどの動物の毛が使われ、じくは木製や竹製です。筆づくりはすべて職人の手作業で、大きく12の製作工程があります。

最初は「毛組み」の工程です。つくる筆の種類に合わせて動物の毛を選び、毛の良し悪しで仕分けして、組み合わせていきます。このあと、米のもみ殻を灰にして毛にふくませ、シカ皮で巻いてもみ、油分を取り出します。こうすると墨をふくみやすい筆ができます。

次に、毛束から芯をつくり、毛をそれぞれ必要な長さにそろえて切り、うす糊をつけてまぜ、重ねていきます。1本の筆に長さや性質のちがう毛がまざることで筆に弾力がつき、まとまりがよくなります。その後、上質な毛をうすくのばして芯に巻きつける「衣毛巻き」をして、根元を麻糸でしめて焼けば穂首ができます。穂首をじくにはめたあと、じくに熊野筆の銘を刻んで完成です。

| 熊野筆データ |                                                              | 2023年現在                                                                             |
|--------|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 指定     | 国指定伝統的工芸品                                                    |  |
| 産地     | 安芸熊野町                                                        |                                                                                     |
| 原材料    | 穂首/ヤギ、ウマ、シカ、タヌキ、イタチまたはネコの毛ほか<br>じく/タケまたは木                    |                                                                                     |
| 製品     | 毛筆、画筆、化粧筆など                                                  |                                                                                     |
| 産地組合   | 熊野筆事業協同組合<br>〒731-4214 広島県安芸郡熊野町中溝3-13-1<br>TEL:082-854-0074 |                                                                                     |
| 筆の加工所  | 熊野筆事業協同組合<br>〒731-4293 広島県安芸郡熊野町中溝5-17-1<br>TEL:082-855-3010 |                                                                                     |

写真提供/熊野筆事業協同組合



白い穂首はやわらかいヤギの毛。茶色い穂首はシカ、ウマ、イタチなどの毛でかたく、毛筆に向いているとされる。

## 自然に返る素材を道具に使用

筆づくりの製造工程で使われる道具や材料の多くは、自然の素材が使われています。たとえば、毛の油分を取る工程では、米のもみ殻とシカの皮が使われます。毛の長さを切りそろえるときには、「寸木」という木製の専用道具を使用します。また、毛束の根元をしばるための糸は麻糸を使用します。



**毛組み** つくる筆の種類に合わせて動物の毛を決めたあと、毛の良し悪しで仕分けをして、組み合わせていく。



**衣毛(上毛)巻き** 筆の芯になる毛より上質な毛をうすくのばして芯に巻きつけ、乾燥させる。



**くりこみ** じくを回転させながら、穂首をはめる部分の厚みを小刀で調整し、接着剤で穂首をじくに固定する。



**飛鳥時代から続く墨づくり** 奈良県奈良市で、約1300年前から生産されている墨です。飛鳥時代に中国からもたらされ、奈良時代に都の奈良で墨づくりがさかんになります。平安時代になって都が京都に移ったあとも、墨の工房は神社や寺院の多い奈良に置かれました。室町時代の初めには、興福寺で燈明のすすを材料にした油煙墨がつくられるようになり、「奈良墨」として有名になりました。

**奈良墨の特長** 墨は、すすと\*膠、少量の香料を練り合わせてつくられます。膠は墨をつくる工程で、すすを固める働きをする一方、紙に書かれたすすを定着させる働きがあります。すすには、松から取れる松煙、植物油から取れる油煙があります。つくり方は、湯せんにかけてとろけた膠を、松煙か油煙でつくったすすに、香料とともに入れてまぜ、十分練り上げます。膠が入ったことですが固まりやすく、膠においては香料が消してくれます。練り上がった墨の玉は、木型に入れて圧縮機で固め、墨の形にします。その後、木型から出して何か月も乾燥させ、表面の文字などに彩色してできあがります。

**正しい保管で長期間使える** 固形墨は湿気や急激な温度変化に注意し、正しく保管すれば何十年も使えます。また、新品の墨より、数年間寝かせたもののほうが、おだやかな墨色になります。



**すすをつくる**  
**油煙からすすをつくる**  
植物油を土器の皿に入れて火を灯し、かぶせたふたの上についたすすを集める。



**松煙からすすをつくる**  
松にきずをつけてヤニを出し、その部分を焼やし、まわりの燐子や天井についたすすをはき集めて採取する。

\*膠 動物の皮や骨などを煮つめた液をかわかしてかためたもの。



表面に文字や絵柄が彩色された、さまざまな形の固形墨。黒い墨のほか、青みのある青墨、赤みのある茶墨などがある。



**墨の玉を天秤で計る** すすに、とろけた膠と香料を加えてまぜ、手や足で墨の玉を練りあげる。それをちぎって天秤で計る。

## 型に入れる

さらに練り上げた墨の玉を木型に入れ、圧縮機にかけて墨の形にする。このあと、乾燥、みがき、彩色の工程を経て完成。



| 奈良墨データ |                                                                          | 2023年現在                                                                               |
|--------|--------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 指定     | 国指定伝統的工芸品                                                                |  |
| 産地     | 奈良市                                                                      |                                                                                       |
| 原材料    | すす/松煙または菜種油、ゴマ油、ツバキ油、桐油、ヤシほか<br>膠/ウシの膠または動物の皮や骨を煮て取り出したものなど<br>香料/龍脳など   |                                                                                       |
| 製品     | 固形墨、液体墨                                                                  |                                                                                       |
| 産地組合   | 奈良製墨組合<br>〒630-8141 奈良県奈良市東区新町7-576<br>株式会社岡竹 総務部内 TEL:0742-50-2052      |                                                                                       |
| 墨の資料館  | 墨の資料館<br>〒630-8043 奈良県奈良市六条1丁目5-35<br>墨道堂本社/がんてー書長墨のとなり TEL:0742-52-0310 |                                                                                       |

写真提供/奈良製墨組合

# 伝統産業会館・体験教室ガイド

2013年12月現在、全国に31館ある伝統産業会館のうち主に体験教室を開いている施設を紹介します！

## 北海道・東北地方の伝統産業会館4館

- 奥州市伝統産業会館キューボラの館 ●餅つくり体験教室  
〒023-0104 岩手県奥州市水沢区羽田町駅前 1-109
- みやぎ蔵王こけし館（蔵王町伝統産業会館） ●こけし絵付け体験  
〒989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉新地西裏山 36-135
- 角館棒組工伝承館 ●棒組工壁かけづくり・棒組工コースターづくり  
〒014-0331 秋田県仙北市角館町表町下丁 10-1
- 福島県伝統産業会館  
〒965-0042 福島県会津若松市大町 1-7-3

## 中部地方の伝統産業会館8館

- 小千谷市総合産業会館サンブラザ ●はた織り体験「コースター織」ほか  
体験型の織物ギャラリー「織之座」  
〒947-0028 新潟県小千谷市城内 1-8-25
- 井波彫刻総合会館  
〒932-0266 富山県南砺市北川 733
- 山中漆器伝統産業会館  
〒922-0111 石川県加賀市山中温泉湯谷町イ 268-2
- 加賀友禅会館 ●加賀友禅染め体験（手描き体験、型絵染め体験）  
〒929-0932 石川県金沢市小町町 8-8
- いしかわ生活工芸ミュージアム ●伝統工芸士などによる実演・体験  
（石川県立伝統産業工芸館） 九谷焼、山中漆器、金沢箔ほか  
〒929-0936 石川県金沢市兼六町 1-1
- 鯖江市越前漆器伝統産業会館 ●絵付け、沈金、拭き漆体験  
〒916-1221 福井県鯖江市西袋町 40-1-2
- 飯山市伝統産業会館  
〒389-2253 長野県飯山市飯山 1436-1
- 土岐市美濃焼伝統産業会館  
〒509-5142 岐阜県土岐市東町久尻 1429-8

## 関西地方の伝統産業会館8館

- 伊賀焼伝統産業会館  
〒518-1325 三重県伊賀市丸柱 169-2 ●作陶体験
- 甲賀市信楽焼伝統産業会館  
〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 1203



奥州市伝統産業会館キューボラの館は南部鉄器の名品や道具が並び、工房が再現されるなど、鉄器づくりをアルに学べます。



みやぎ蔵王こけし館の「こけし絵付け体験」では、全国の伝統こけしが展示されています。また、オリジナルのこけしをつくって楽しむこともできます。



加賀友禅会館の手づくり体験コーナーでは、ハンカチやトートバックへの手描き染めや、型紙・型絵を使って染める型染め体験ができます。



伊賀焼伝統産業会館の「作陶体験」は、手ひねり、電動ろくろ、絵付けの中からコースを選んで、自分だけのオリジナル作品をつくって楽しめます。

近江上布伝統産業会館 ●機織り体験  
〒529-1331 滋賀県愛知郡愛荘町愛知川 13-1

京都伝統産業ミュージアム ●手描き友禅染、くみひもかざり結びなど  
〒606-8343 京都府京都市左京区岡崎成勝寺町 9-1 京都市勧業館みやこめっせ内

堺伝匠館（堺伝統産業会館）  
〒590-0941 大阪府堺市堺区材木町西 1丁 1-30

小野市伝統産業会館  
〒675-1378 兵庫県小野市王子町 806-1

丹波立杭焼伝統産業会館 ●粘土練工、絵付け  
〒669-2135 兵庫県篠山市今由町上立杭 3

紀州漆器伝統産業会館うるわし館 ●漆器蒔絵体験  
〒642-0001 和歌山県海南市船尾 222

## 中国・四国地方の伝統産業会館5館

- 雲州そろばん伝統産業会館  
〒699-1832 島根県仁多郡美出雲町横田 992-2
- 備前焼伝統産業会館 ●土ひねり体験  
〒705-0001 岡山県備前市伊部 1657-7
- 阿波和紙伝統産業会館 ●オリジナルの手すき和紙づくり  
〒779-3401 徳島県吉野川市山川町川東 141
- 砥部焼伝統産業会館  
〒791-2132 愛媛県伊予郡砥部町大南 335
- いの町紙の博物館（土佐和紙伝統産業会館） ●紙すき体験  
〒781-2103 高知県吉川郡いの町幸町 110-1

## 九州・沖縄地方の伝統産業会館6館

- 小石原焼伝統産業会館 ●陶芸体験  
〒838-1601 福岡県朝倉郡東藤村小石原 730-9
- 伊方里・有田焼伝統産業会館 ●焼き物絵付け体験  
〒848-0026 佐賀県伊方里市大川内町丙 221-2
- 三川内焼美術館／三川内焼伝統産業会館 ●みかわち焼絵付け体験・すかし彫り体験  
〒859-3151 長崎県佐世保市三川内町 343
- 熊本県伝統工芸館  
〒860-0001 熊本県熊本市千歳町 3-35
- 別府市竹細工伝統産業会館 ●竹鈴、西海波花籠づくり  
〒874-0836 大分県別府市東荘園 8-3



近江上布伝統産業会館では、「地機織り体験」ほか、麻の繊維から糸をつくったり、苧麻から繊維を取り出したりする体験ができます。



紀州漆器伝統産業会館うるわし館では、下絵がえがかれた盆や井筒箱などに、好きな色を塗り楽しむ「蒔絵体験」を楽しむことができます。



三川内焼伝統産業会館では、みかわち焼の膳碗、皿、マグカップなどの絵付け体験ができるほか、陶器のすかし彫りをつくる体験もできます。



別府市竹細工伝統産業会館では、竹鈴や小さな籠などを手づくりできる体験学習が行われています。写真は親子で竹鈴をつくる様子。